

似合う眼鏡 AIが提案

バーチャル画面で試着も

きょうからジンス

眼鏡チェーン「JINS」を展開するジンス（前橋市川原町、田中仁「CEO」）は15日、人工知能（AI）がバーチャル画面上で似合う眼鏡を提案するサービスを提供すると発表した。16日から全国434店舗と公式オンラインショップで始める。

サービスは「JINS BRAIN2」。店舗でタブレット端末に顔を映すと、AIが顧客の輪郭の特徴を6項目で検知し、似合う眼鏡を在庫の中からランキング形式で提案する。同社によると、同種のサービスは世界初という。

公式オンラインショップでも同様のサービスが受けられる。実店舗で試着をしなくても、より似合う眼鏡を選ぶことができる。

同社は2016年に眼鏡の「似合い度」を判定する「JINS BRAIN」を開発。ただ、同社の調査では「自分に似合う眼鏡が分からなくて困ったことがある」と答えた人が88%に上ったことから、新たに商品を提案する機能を追加した。

このほか、店舗では自分の眼鏡を掛けたまま、バーチャル画面上で商品を試着できるサービスを全店で導入する。眼鏡を外すと鏡に映る顔が見えづらいという課題を解決した。各店舗の商品陳列場所



「JINS BRAIN2」を操作する

人たち15日

が検索できる「棚NA VI」は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から来店をためらう人でも滞在時間を短くでき、スムーズに購入

できるといふ。15日に吉祥寺ダイヤ街店（東京都武蔵野市）で、報道関係者向け内覧会を開いた。ジンスの担当者は「好きな時間と場所で使えるサービス。ぜひ一度体験してJINSの良さを知ってもらえたらいい」と話している。（落合琢磨）